

# 社会文教委員会

期日：平成 29 年 3 月 13・14 日 午前 9:00

場所：第一委員会室

## 1 開会

## 2 委員長挨拶

## 3 理事者挨拶

## 4 議案審査

- (1) 議案第 15 号「飯田市保育所設置条例の一部を改正する条例の制定について」
- (2) 議案第 16 号「飯田市立幼稚園条例を廃止する条例の制定について」
- (3) 議案第 17 号「飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について」
- (4) 議案第 19 号「飯田市公民館条例の一部を改正する条例の制定について」
- (5) 議案第 28 号「公の施設の指定管理者の指定について（飯田市旧小笠原家書院・小笠原資料館）」
- (6) 議案第 30 号  
「平成 28 年度飯田市一般会計補正予算（第 7 号）案」のうち当委員会付託分  
【別紙付託表 1】
- (7) 議案第 31 号「平成 28 年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）案」
- (8) 議案第 32 号「平成 28 年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第 2 号）案」
- (9) 議案第 36 号「平成 29 年度飯田市一般会計予算（案）」のうち当委員会付託分  
【別紙付託表 2】  
【補足資料】
- (10) 議案第 37 号「平成 29 年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）」 【予算書 3 頁】
- (11) 議案第 38 号「平成 29 年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）」【予算書 51 頁】
- (12) 議案第 39 号「平成 29 年度飯田市介護保険特別会計予算（案）」 【予算書 69 頁】

(13) 議案第 43 号「平成 29 年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）」  
【予算書 167 頁】

(14) 議案第 45 号「平成 29 年度飯田市病院事業会計予算（案）」  
【予算書 203 頁】  
【補足資料】

## 5 請願・陳情審査

(1) 平成 28 年陳情第 4 号（継続）  
【資料 No. 1】

### ア 要旨

県に対し、子ども・障がい者等の医療費窓口無料化を求める意見書を提出願いたい

### イ 陳情者住所氏名

飯田市鼎中平 1905 番地 5

飯伊地区社会保障推進協議会

事務局長 林 憲治氏

6 所管事務調査の報告について  
【資料 No. 2】

7 閉会

議案第30号 平成28年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案  
付託表

【社会文教委員会】

1 歳入

款	項	目	議案頁
13 国庫支出金	1 国庫負担金	3 民生費国庫負担金	14
	2 国庫補助金	3 民生費国庫補助金	14
14 県支出金	1 県負担金	3 民生費県負担金	14
	2 県補助金	3 民生費県補助金	14
16 寄附金	1 寄附金	3 民生費寄附金	16
		10 教育費寄附金	16
19 諸収入	5 雑入	1 雑入（関係分）	18

2 歳出

款	項	目	議案頁
3 民生費	1 社会福祉費	4 老人福祉費	22
		1 児童福祉総務費	24
	2 児童福祉費	4 発達支援センター費	24
		5 民間保育所費	24
		8 地域子育て支援費	26
		2 福祉企業センター費	26
3 生活保護費	2 福祉企業センター費	26	
4 衛生費	1 保健衛生費	1 保健衛生総務費	26
		3 成人保健事業費	26
10 教育費	1 教育総務費	2 事務局費	34
	2 小学校費	2 小学校教育振興費	36
	3 中学校費	1 中学校管理費	36
		2 中学校教育振興費	36
	4 幼稚園費	1 幼稚園費	36
5 社会教育費	4 公民館費	36	

3 繰越明許費関係分

議案第36号 平成29年度飯田市一般会計予算(案)  
付託表

【社会文教委員会】

1 歳入

款	項	目	議案頁
11 分担金及び負担金	2 負担金	3 民生費負担金	22
		10 教育費負担金	24
12 使用料及び手数料	1 使用料	3 民生使用料	24
		4 衛生使用料(保健課分)	24
		10 教育使用料	26
	2 手数料	10 教育手数料	32
13 国庫支出金	1 国庫負担金	3 民生費国庫負担金	32
		4 衛生費国庫負担金	36
	2 国庫補助金	3 民生費国庫補助金	36
		4 衛生費国庫補助金(保健課分)	38
		10 教育費国庫補助金	44
	3 委託金	3 民生費委託金(福祉課分)	46
10 教育費委託金		46	
14 県支出金	1 県負担金	3 民生費県負担金	46
		4 衛生費県負担金	48
	2 県補助金	3 民生費県補助金	50
		4 衛生費県補助金(保健課分)	54
		10 教育費県補助金	62
	3 委託金	3 民生費委託金	64
10 教育費委託金		64	
15 財産収入	1 財産運用収入	1 財産貸付収入(関係分)	64
16 寄附金	1 寄附金	10 教育費寄附金	66
19 諸収入	3 貸付金元利収入	3 民生費貸付金元利収入	68
		10 教育費貸付金元利収入	68
	4 受託事業収入	3 民生費受託事業収入	68
		10 教育費受託事業収入	70
	5 雑入	1 雑入(関係分)	70

2 歳出

款	項	目	議案頁
3 民生費	1 社会福祉費	危機管理室分、男女共同参画課分及び市民課分除く	134
	2 児童福祉費		158
	3 生活保護費		178
4 衛生費	1 保健衛生費	保健課分	188
10 教育費	1 教育総務費		304
	2 小学校費		310
	3 中学校費		318
	5 社会教育費		326
	6 保健体育費		362

3 債務負担行為関係分



飯田市議会  
議長 木下 克志 殿

資料番号  
Na |

陳情

2016年11月21日

子ども・障がい者等の医療費窓口無料化を実現するため

長野県への意見書の提出を求める陳情

陳情者 飯田市鼎中平1905-5番地  
飯伊地区社会保障推進協議会  
事務局長 林 憲治

日頃より子育て支援、福祉の充実にご尽力をいただきありがとうございます。  
私たちは、子どもをかかえる若い世帯、母子世帯、障がい者やその家族などが、経済的な心配をしないで、安心して医療を受けられる機会が保障されるように、福祉医療給付制度の改善を願ってきました。今般の経済状況の中で、その願いは一層切実になってきました。

全国の都道府県では2015年4月時点で、子ども医療費は38都府県、障がい者医療で29都道府県で窓口無料化（現物給付）を実施しています。子ども医療費が償還払いの北海道と埼玉県では、道県の制度では償還払いですが、ほとんど市町村が窓口無料化しています。また長野県と同じ自動給付方式を採用している岩手県では本年8月県下一斉に窓口無料化に移行しました。こうして本年度では、当該県下のすべての市町村で窓口無料を実施していない県は、長野県を含め6県のみとなります。また、障がい者医療では、昨年8月千葉県が窓口無料に、山梨県は、昨年償還払いに変更されましたが、本年4月から障がいを持つ子どもは窓口無料が復活しました。

長野県が窓口無料を実施しない理由として、「窓口無料（現物給付）を実施する自治体に対する国の国民健康保険の補助金減額（所謂ペナルティ）があること」を挙げていますが、厚生労働省は、国民各層・各界からの要望も有り、年末にもその国庫負担減額の見直しを表明する方向です。そうなれば、もうこれをやらない理由はなくなります。長野県でも一刻も早く子ども、障がい者等の窓口無料化を実施していただくことが、飯田市民も含む長野県民多数の願いとなっています。

この間、松本市をはじめ県内の過半数を超える市町村議会で、この件についての請願・陳情が採択され、県への意見書が上げられています。是非飯田市に於かれましても、長野県でも「子ども・障がい者等の医療費の窓口での無料化」が実施されますように県に意見書をあげて頂きますようお願い申し上げます。

以上陳情致します。

【陳情事項】

長野県でも子どもと障がい者等の福祉医療費の窓口無料化が実施されるよう県に意見書を提出してください。

以上

所管事務調査報告書

委員会名	社会文教委員会
調査研究テーマ	地域包括ケアシステムの構築について
テーマ設定の背景	<p>1 「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が施行され、高齢化が進行する中で、社会保障制度を将来も維持していくために、医療・介護提供体制の構築や、医療・介護を対象とした新たな税制支援制度の確立、地域包括ケアシステムの構築などを行い、地域における医療と介護の総合的な確保を推進することとなった。今後は、地域における医療と介護の連携がますます重要になる。また、病院の機能分化が進められる中、市民意識はどうなのか、市民との意見交換を行い、課題を明らかにする。</p> <p>2 介護に至った時の連携はどうなのか、地域包括ケアシステムの構築を目指し、管外視察地先進事例や飯田・下伊那圏域の実態を把握して、将来の医療と介護の連携のまちづくりのあり方について研究する。</p>
調査研究の経過・結果	<p>〔課題整理〕</p> <p>1 医師会や社会福祉協議会といった医療や介護を提供する側の課題認識はどうか。また、制度等現状把握する。</p> <p>2 市民は、医療や介護に何を望んでいるか。</p> <p>〔取組経過〕</p> <p>平成27年 5月19日 市内視察の実施 (認知症対策総合推進事業他の取り組みを視察)</p> <p>7月13日 県外先進地視察の実施 (岡山県高梁市での地域包括ケアシステムの取り組みについて)</p> <p>7月14日 県外先進地視察の実施 (鳥取県米子市での介護予防事業の取り組みについて)</p> <p>10月1日～10月8日 議会報告会 「病気になった時、病院や診療所の「かかりつけ医」は持っていますか」を分科会テーマに市民の皆さんから意見を伺う</p> <p>平成28年 2月10日 長野県看護協会、社会福祉法人萱垣会、飯田医師会との懇談</p> <p>3月15日 飯田市社会福祉協議会、飯田下伊那薬剤師会との懇談</p> <p>4月19日 市内視察の実施</p> <p>5月9日 飯田下伊那歯科医師会との懇談</p> <p>6月30日 県外先進地視察の実施 (新潟県長岡市での、地域包括ケアシステムの取り組みについて)</p> <p>7月20日 社会文教委員会の開催 (関連事務事業等の前年度実績評価を行う)</p> <p>8月2日 社会文教委員会協議会の開催 (関連事務事業等の前年度実績評価を取りまとめる)</p> <p>9月26日 関連事務事業等に関し行政評価の提言を行う</p> <p>9月29日～10月6日 議会報告会 「地域包括ケアシステムの構築に向けて」に関し、各団体との懇談の中から課題を整理し、中間報告を行う。</p> <p>10月21日 社会文教委員会 協議 (議会報告会のまとめ)</p> <p>11月2日 社会文教委員会 協議 (議会報告会での意見を基に、委員会としての意見を集約)</p> <p>12月20日 政策討論会を開催</p>

## 所管事務調査報告書

平成29年1月4日 政策討論会を受けて修正案の協議  
2月2日 正副委員長協議  
2月9日 社会文教委員会で検討

### 〔調査研究結果〕

2年間の活動を踏まえて、今後の人口減少、高齢社会に向けた提言を委員会としてまとめ、「地域包括ケアシステムの構築は、地域の総力で」として、議会として市長へ提言する。（平成29年3月8日）

# 地域包括ケアシステムの構築は、地域の総力で

～医療・介護・暮らしをパッケージで取り組むために～

平成 29 年 3 月 8 日  
飯田市議会

一昨年（平成 27 年）、飯田市議会は、「高齢社会の“まちづくり”を推進する新しい社会システムづくり」を検討するよう提言しました。

飯田市が策定した「いいだ未来デザイン 2028（基本構想及び基本計画）」では、リニアを見据えた 12 年後を目標に、8 つのめざすまちの姿を描いております。その一つに『健やかに生き生きと暮らせるまち』では、“多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力をいかに緩やかで程よいコミュニティにより、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っています。さらに、“市民、民間事業者、行政のつながりによる「医療、介護、福祉の連携体制」が整備され、高齢者になっても安心した暮らしを送っています。とし、キャッチフレーズを、リニアがもたらす大交流時代を見据え、改めてムトスを合言葉として、いきいきと「暮らし豊かなまち」と自らの思いをデザインできる、誰もが主役の「飯田未来舞台」を実践しようとするものです。

人口減少、少子高齢化がますます進む中、安心社会を実現するためにも、高齢社会のまちづくりを推進する新しい社会システムづくりとして、地域の総力で、医療・介護・暮らしをパッケージで取り組むための仕組みづくりを早急に構築しなければなりません。新しい社会システムづくりとして『地域包括ケアシステム』を早急に立ち上げ市民一丸となって実践することであります。そのためには、短期・中期・長期の体制整備は必要不可欠です。以下の提言を参考に取り組みたい。

## 提言 1 人材確保策について

- ① 地域包括ケアシステムを構築する上で人材確保は不可欠であることから、奨学金制度の拡充に積極的に取り組まれない。また、飯田医師会が南信州広域連合に要望した看護人材確保のための奨学金制度創設に対して支援されたい。
- ② 法人等における看護職不足に対応するため、市と市立病院との協定による派遣制度を検討されたい。（社協より提言）

## 提言 2 病院の機能分化と病床数に関して

地域包括ケアシステムを構築する上で、医療の役割は大変重要である。法に基づいて、病院の機能分化と役割が示されたことから、県が窓口となって、2次医療圏域ごとに病床（機能と数）の見直しを行うために、長野



県地域医療構想策定委員会を組織して議論がされている。飯田医師会では、この地域は医療費が抑制されており、一律に病床数を削減することに対して、疑問を持っており、現状維持との意見を上げている。そのためには、飯田医師会の方針を支持する中で、議論の動向を注視しつつ、南信州広域連合を含めた広域的な取り組みをされたい。

### 提言3 住まいの確保に関して

いわゆるシニアハウスやサービス付き高齢者向け住宅等の必要性も含め、需要と供給に対する民間活力の参入に期待する。また、高齢者が地域の支え合いの中で、サービスを受けられることも大切であり、空き家の活用等を含め、検討されたい。

### 提言4 医療と介護の連携に関して

関係団体と懇談する中で、医療と介護の連携はすべての団体に課題としている。現在、南信州広域連合における「南信州在宅医療・介護連携推進協議会」で課題を整理、連携について検討されている。そのため議論の動向を注視するとともに、地域包括ケアシステムを構築する上で、最も重要視したい課題であるため、特に留意をされたい。

### 提言5 ICT活用による機能強化に関して

- ① 医療と介護を機能的に取り組むためには、委員会で視察した資料⑧新潟県長岡市が取り組んでいるタブレットを活用した情報共有のシステムは効果的であり全市展開をしている。飯田市で導入したism-Linkのシステムを医療機関から介護施設、在宅介護・看護への導入は欠かせない。そのためには、計画的にシステム導入を図られたい。なお、情報機器の導入にあたっては、費用対効果を含め検討されたい。
- ② 地域包括ケアシステムの拠点として、国は地域包括支援センターを念頭においている。そのためには、地域包括支援センターを拡充し、相談窓口の充実や地域ケア会議が機能するよう検討されたい。

### 提言6 地域での支え合いに関して

地域包括ケアシステムを推進するためには、医療と介護の専門機関の連携に加えて、地域の連携は欠かせない。そのためには、地域福祉計画を策定しているが、地域での支え合いが大変重要である。“お互い様”の精神で支え合いのまちづくりを推進する機運の醸成と『合言葉はムトス』の精神で、官民連携した地域福祉の推進を地域の総力で取り組まれたい。

# 所管事務調査報告書

委員会名	社会文教委員会
調査研究テーマ	体育施設のあり方と活用について
テーマ設定の背景	<p>1 南信州広域連合が策定した「南信州広域連合広域計画書（第4次広域計画）」では、リニア中央新幹線開業に向けて望まれるインフラ整備として、「スポーツ施設」が掲げられていて、「スポーツの国際的大会の招致や一流のアスリートを始めとして様々な人々が集う合宿地をめざす」としている。</p> <p>2 公益財団法人飯田市体育協会が策定した「飯田市スポーツ振興ビジョン」では、ビジョンの柱の一つとして、スポーツ施設環境の向上をうたい、「複合文化施設の建設」、「南信州地域内のスポーツ施設の相互利用」を方向性としている。</p> <p>3 飯田サッカー協会では、「サッカー専用グラウンドの建設」との要望が、総合型地域スポーツクラブNPO法人南信州クラブ、飯田ラグビーフットボール協会からは、「ア世界標準であるグラウンドの芝生化、イ平成39年開催の国体が開催できる競技施設（芝生グラウンド2面）の構築、ウ保育園・幼稚園の園庭芝生化」との要望がある。</p> <p>4 27年度の議会報告会において「若者の定住や移住者を増やすには、この地域の自然と健康を売りにする。そのためには、スポーツが大切。この地域には、施設が不足している。総合型（一箇所で様々なスポーツや交流ができる）大型施設が必要である」「飯田市には県レベルのスポーツ大会が開催できる施設が整備しておらず、とても残念だ。リニアが止まる市なので、それにふさわしい施設、若者が残りたくなるような施設を作って欲しい」との意見もあった。</p> <p>5 学校の校庭や保育園の園庭等の芝生化をとの声（議員や私立幼稚園から）もある。</p> <p>6 人口減少に向かっていく中で、維持管理を考えていくと多くの施設を抱える状況ではなくなってきた。しかも、現施設の老朽化への対応等も必要となってきた。</p>
調査研究の経過・結果	<p>〔課題整理〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種団体からそれぞれにスポーツ施設（インフラ）整備の要望がある。</li> <li>2 学校の校庭や保育園等の園庭の芝生化の声がある。</li> <li>3 人口が減っていく中での現施設の維持管理をどうするか。また、老朽化への対応をどうするか。</li> </ol> <p>〔取組経過〕</p> <p>平成28年6月15日 全員協議会 （「公共施設マネジメント優先検討施設の検討状況について」説明を受ける）</p> <p>7月1日 県内先進地視察の実施 （松本市の保育園園庭芝生化事業について）</p> <p>7月20日 社会文教委員会の開催 （関連事務事業等の前年度実績評価を行う）</p> <p>8月2日 社会文教委員会協議会の開催 （関連事務事業等の前年度実績評価を取りまとめる）</p> <p>9月14日 社会文教委員会の学習会の開催 （「飯田市における体育施設の現状について」、生涯学習・スポーツ課から説明を受け、意見交換を行う）</p> <p>9月26日 関連事務事業等に関し行政評価の提言を行う</p>

## 所管事務調査報告書

- 9月29日～10月6日 議会報告会  
「体育施設のあり方と活用について」をテーマに市民の皆さんから意見を伺う
- 11月2日 社会文教委員会 協議  
(議会報告会での意見を基に、委員会としての意見を集約)
- 12月7日 所管する教育委員会及び健康福祉部に対し、  
社会文教委員会からの提案とし、提案書を手交する

### 〔調査研究結果〕

各種団体の主張はそれぞれであり、委員会では集約できなかったが、議会報告会での意見やこれまでの委員会活動を踏まえ、一旦総括し、教育委員会及び健康福祉部へ12月7日に提案した。

なお、小・中学校の校庭の芝生化については、現状では校庭を駐車場等に使用しているため難しい。PTAの立場からも芝生の管理に協力することは難しいとの意見が市民の皆さんからあった。

平成 28 年度議会報告会を起点とした社会文教委員会の取り組みについて

飯田市議会社会文教委員会

はじめに

平成 28 年度議会報告会分科会のテーマ設定の背景に記載したが、飯田サッカー協会及び飯田ラグビーフットボール協会から飯田市議会議長宛に要望書が提出されたこと、昨年度（27 年度）の議会報告会の分科会の中でも一部の市民から提案があったこと、議員の一般質問等でもたびたびこれらの件に関して取り上げられたこと等から、平成 28 年度の議会報告会分科会のテーマとして、市民の皆さんのご意見を伺った。

あわせて、委員会としても、「園庭の芝生化」に関し先進地の取り組みを視察し、調査研究を行ってきた。

今回は、3 の理由でも記載したが、市民の皆さんの意見を伺うにあたり、具体的な数字等を示し意見交換をしたものではないこと、各種団体の主張はそれぞれであり、委員会としては集約できないこと等があるが、議会報告会で出された意見やこれまでの委員会活動を踏まえ一旦総括し、委員会の提案として担当部署へ提出するものである。

1 平成 28 年度議会報告会分科会のテーマ

「体育施設のあり方と活用について」

～市民の健康増進と将来を担う子どもたちのために～

2 議会報告会で出された意見を踏まえての方向性（提案）

- (1) 議会報告会で出された意見として、飯田市体育協会からは、南信州地域全体の視点を持つての複合文化施設（体育館）の建設提案があり、ラグビー協会及びサッカー協会から、規格や用途はそれぞれだが、専用の芝生グラウンド建設の要望があった。また、市民がよりスポーツに親しめることが大切であり、今ある施設の存続、それに伴う改修を行い、スポーツ合宿や大会誘致が可能な施設としても、活用できるようにすべきとの要望もあった。

一方で、人口減の中で今ある施設の維持管理も財政的に困難であることや新たな施設についても 10 万人規模の都市にあるべき施設のあり方、建設費や維持管理費等の財政負担の観点、有料での観戦誘客増の観点、さらに拠点集約化の観点から議論すべきとの意見もあった。

つきましては、これらの意見を踏まえ、飯田市公共施設マネジメント検討の中で、リニア時代を見据え、スポーツ施設のあり方（新設及び改修も含め）について、早急かつ前向きに検討をされたい。

- (2) 保育園、幼稚園、認定こども園の園庭芝生化については、現場の声や地域の実情をよく聞き、これを踏まえ、実施主体への補助も含めたモデル事業としての実施を検討されたい。

### 3 委員会の提案として担当する部署へ提出する理由

- (1) 今回の分科会は、テーマについて広く市民の意見を聞くとの立場で望み、そのため、その場で行われた意見について、議員や市民の皆さんと意見交換は行っていない。(いわゆる社会保障関係経費の額や全国的な基準で算定した公共施設の維持管理費の額を資料で配付するなど、金額等を含め、相対的に議論は行っていない)
- (2) また、関係する団体(飯田市体育協会、ラグビー協会、サッカー協会)へ参加の依頼をしたことから、必然的にその団体からの提案が多く出されている。その団体からの提案も、個人個人でそれぞれの思い、主張がある。施設の建設についても、どの程度の水準の規格に合致した施設なのか、普段の練習のできる施設なのか、興行的施設なのか、専用施設なのか、複合施設なのか、まちまちである。
- (3) 本格的な競技施設について、市民の利用状況、運営や維持管理の状況等を把握しているわけではない。したがって、今回の意見をもとに、社会文教委員会として何らかの集約を行うには、情報不足、研究不足である。
- (4) 一方で、関係する団体はそれぞれの主張があり、また、団体内でも個々それぞれ主張があるため、それを社会文教委員会で調整し、集約することは難しい。
- (5) 市では、飯田市公共施設マネジメント基本方針を策定し、その中で、公共施設の今後のあり方について検討をはじめている。

### 4 平成28年度議会報告会分科会での意見の概要

#### (1) 各種団体等からの施設建設要望

ア トップアスリートの試合のできるサッカー施設。芝生のグラウンドが必要。

イ 国体が開催できる芝生のラグビー場が必要。

ウ 少年サッカーでの県大会が開催できるサッカー専用のグラウンドの建設。

エ サッカー及びラグビーが使えるグラウンドの建設。

オ サッカーと兼用グラウンドになるかもしれないが、高校ラグビー長野県大会の決勝戦を行えるグラウンドを整備。

カ トップアスリートが使うものではなく、ラグビー練習ができる芝生(野原のような)のグラウンドの建設。しかも、自転車で行ける範囲に数多く。維持管理は利用団体で行う。

キ 全国大会等ができる素晴らしい芝生のグラウンドが欲しいが、サッカーなり、ラグビーなりを普段から楽しめる気軽な芝生のグラウンドが増えるとよい。芝生の維持管理は、使用者や保護者も協力できるのではないかと。

ク トップアスリートが練習や試合のできる体育館が欲しい。

- ケ グラウンドの数はあるが、体育館はレベルの高い大会や試合ができる施設はない。トップ選手にあこがれてスポーツを始める子もいる。
- コ 県レベル以上の大会（国際大会を含む）を開催できる施設がないので、そういった大会を開催できる施設。
- サ 砂入り人口芝のテニスコートを増設してもらいたい。天龍峡テニスコートを充実させれば、天龍峡の活性化にもつながる。
- シ 松尾グラウンドは養生期間が長く、使えるのは試合だけというのが実態で、養生期間が長い割にはグラウンドの状態が良いわけではない。
- ス 体育館も運動だけに固執せず、運動・文化・芸術・公民館が利用でき、国際的・全国的な催しが開催できる複合文化施設。
- セ 人口減の中で、地域の人達がスポーツに親しめることが大事で、頂点を目指すアスリートのための施設はどうか。種目毎の単独の施設ではなく、市民みんなが体育、運動だけでなく文化的にも使える施設が望ましい。
- ソ 国際大会の開催できる施設も良いが、維持管理費が多額で大変ではないか。

(2) 保育園・幼稚園、小・中学校の園庭及び校庭の芝生化について

- ア 入船幼稚園の園庭は、全面芝生である。維持管理は大変だが、保護者の協力で草取りをしている。このことが結果として地域のつながりとなる。
- イ 校庭の芝生化ができれば最良である。芝生の校庭が学校の魅力となり、都会からの留学にもつながるのではないか。
- ウ 保育園庭の一部を芝生化は可能である。
- エ 公立保育園、保護者からは、これ以上の園事業への参加・協力は難しい。芝生の維持管理について、保護者へのこれ以上の負担をかけることは難しい。
- オ 幼児期については、芝生化より泥遊びが重要。芝生より周りの自然に親しむべき。
- カ 保育園の園庭の一部が駐車場として使われていて、芝生化は無理である。
- キ 保育現場、教育現場での意見を聞くことが必要。
- ク 校庭の芝生化は管理の面で困難である。現状、学校の校庭の維持管理さえできていない。PTAの立場からも管理に協力するのは難しい。
- ケ 小・中学校の校庭の芝生化は、校庭を駐車場等に使用するため難しい。
- コ 芝生は管理が大変。ボランティアでは無理。芝の草取りは年3回でも取り切れない。

(3) スポーツ観戦への意識の醸成

- ア トップアスリートの競技ができる施設の建設には、まず、この地域にそれだけの観客動員が見込まれるかが大切。現に高校野球の予選は、観客が少なく運営費

の収支があわないため、開催されなくなっている。

イ ホームチームを持って応援していこうというのがまだない。

(4) 現有施設の活用を

ア 今の施設の維持管理も困難である状況を市民に認識してもらうべき。

県施設でも統廃合が問題になっている。市民に必要な施設は大規模改修するしかない。

イ 新たな体育館をつくることも良いが、小学校の体育館を改修して使えないか。子どもも少なくなってきた。

ウ 小学校のグラウンド管理は、本来学校が行うべきであって、地域にあまり依存しないようにしてもらいたい。

エ 今あるものを改修して、合宿等の誘致につなげるなど、今あるものの活用を考えるべき。

(5) 広域的な取り組みを

ア 広域連合を含めて施設を考えたらどうか。

イ 伊賀良三日市場に集約して拠点施設を整備したらどうか。

ウ リニアを見据え、飯田市だけでなく南信州全体で考えることでできることもあるのでは。

(6) 現状の体育施設の充足に関して

ア 体育施設について、県内の他地域に比べこれほど施設が不足しているところはない。不足というより、何もない。

イ 人口当たりでどのような施設が一般的にあるのか、客観的データから判断していくべきではないか。

ウ 10万人都市として、施設の数が多いのか少ないのか。

エ 飯田市はスポーツ合宿におけるハード面で、他地域と比べて劣っているのか。

(7) その他

ア 財政面を考えて行う必要がある。健康増進のためにプラステンやラジオ体操を進めても良い。使用料の減免の見直しをしたらどうか。

5 資料

(1) 28年度議会報告会の意見交換会に係るテーマについて

(2) 平成28年度社会文教委員会所管事務調査（視察）報告抜粋